

進行/再発胃癌

SOX (130) + トラスツズマブ療法レジメン

エルフラット+S-1+トラスツズマブ

臨床試験 (KSCC1501B)

G-25

< 21日間隔(1コース) >

治療日		第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5~14日目	第15日目	第16~21日目	第22日目
治療内容									
検査	採血	○							○
診療	副作用の問診	○							○
	検査結果	○							○
治療中止基準	①WBC 3000未満 ②好中球 1500未満 ③血小板 7.5万未満 他、Hb9未満、AST, ALT100以上、総ビリルビン2以上	—	—	—	—	—	—	—	—
内服	TS-1初回基準量 1. 25m2未満：40mg/回 1. 25m2以上1. 5m2未満：50mg/回 1. 5m2以上：60mg/回 朝夕食後2× 【1.4日間投与7日間休薬】	↓ 夕食後	↓ 朝・夕食後	↓ 朝・夕食後	↓ 朝・夕食後	↓ 朝・夕食後	↓ 朝食後	休	↓ 夕食後
点滴	①生理食塩液50ml ルートキープ用	○							○
	②初回ハーセプチン 8mg/kg +生理食塩液250ml 点滴静注 【90分】	(○)	副作用などの理由で予定していたハーセプチン投与が遅れ、投与予定日より1週間を越えた後に投与する場合は、改めて初回投与量の8mg/kgで投与すること。						
	②2回目以降 ハーセプチン 6mg/kg+生理食塩液250ml 点滴静注 【2回目以降30分以上】								○
	③生理食塩液 50ml ルートフラッシュ用(全開)	○							○
	④ 生食100ml +アロキシ0.75mg +デキサート 3.3mg×2A 点滴静注【30分】	○							○
	⑤ 5%ブドウ糖500mL +オキサリプラチン(130mg/m ²)	○							○
⑥生食50ml ルートフラッシュ用(全開)	○							○	

看護のPoint!!

エルフラットによる過敏症症状に注意。呼吸困難感、かゆみ、発赤、皮疹など。

主治医に報告し、次回からファモチジン注とボララミン注の前投与を考慮する。(7αFFジン錠と材料ミシ錠でも可能)

エルフラットによって末梢神経障害が起こりやすい。まずは冷たいものの接触を避ける。

末梢からエルフラット投与時、血管痛あるかも。温めてあげたり投与時間をゆっくりしてあげる。

TS-1で口内炎、下痢の可能性もある。持参薬にワーファリンがあれば主治医に報告 (TS-1との相互作用あり)

トラスツズマブは体重減少での減量は禁止！